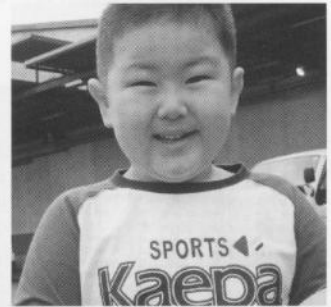
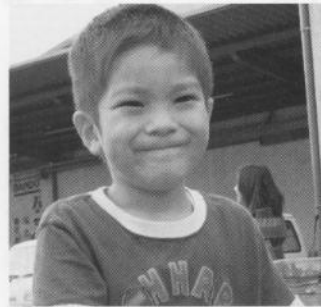


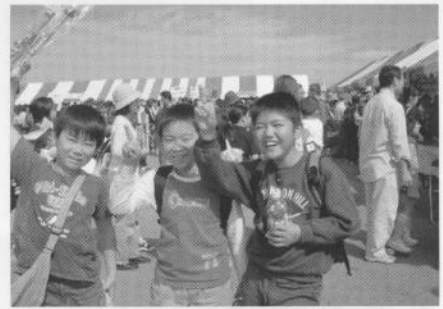
少連協ニュース

発行所 / 足立区少年団体連合協議会
<http://www.a-shorenkyo.jp>

発行人 野辺 陽子
編集 調査広報部



笑顔いっぱいの 子どもたち



足立区
少年団体連合協議会会長 野辺 陽子

現代ボランティア考

ひとくちにボランティアと言っても、いろいろな形態があるよ
うだ。できる人が、できる時に、できるだけのことを無償で行う。
この手のボランティアは、子ども会やPTAの活動がこれに当た
る。また、交通費程度の報酬を得、自分の職業以外のところで他
人のために何かするという有償ボランティア。青少年委員や民生

委員がこれに当たるのだろうか。

私達はどちらもひっくるめてボラン
ティアと称している。しかし、問題な
のは私達の活動している無償の方だ。
もともとやれなくても仕方ないし、や
らなくても構わないのであるから、最
終的には「やーめた。」と言ってしま
えばそれまでなのだ。だが、しかし、

無償と言えども、それ以上の形のない
莫大な恩恵を受けているではないか。
友達がたくさんできるし、情報や知識、
社会で生きていくメソッド、満足感に
充実感、達成感さえも得ることができ
る。もしかしたら、健康や元気ももら
っているのかも知れない。

めんどろなことはお断り、自分が楽
な方、楽な方へと生きている今時のお
母さん達は、ここを理解していない。
それじゃ未来は誰が築いていくのだろ
うか。

平成二十年度 足立区少年団体連合協議会総会

六月七日(土)午後四時より、足立区役所十二階会議室に於て総会が開催されました。

山崎副会長の司会、山本副会長の開会のことばに続き、野辺会長からは「常任理事間の更なる意思疎通を高めるために、新しい事業として『ドッジビー大会』開催の提案があり、体育指導委員会からも全面協力の申し出を受けているので、今後とも皆様のご支援とご協力をお願いします」とあいさつがありました。

引き続き議案審議に入り、平成十九年度、平成二十年度の議案が滞りなく承認されました。本年度



野辺会長のあいさつ



くじらい光治区議会議長のあいさつ

は、役員改選はありませんが、四名の常任理事が交代しました。退任者及び新任者は次のとおりです(敬称略)。

- (退任常任理事)
 - 第四地少協会長 田中 敏明
 - (副会長として留任)
 - 第八地少協会長 矢萩 健次
 - 第九地少協会長 瀬田 良雄
 - 蒲原地少協会長 清水 武忠
- (新任常任理事)
 - 第四地少協会長 五味 潤 彰
 - 第八地少協会長 浅香 守弘
 - 第九地少協会長 杉山 恵次
 - 蒲原地少協会長 山崎 豊松



伊藤会計より会計報告



総会会場

ベテランから若い人へ少しずつ世代交代がとて良い形で進んでいるようです。



楽しかった懇親会



ご来賓と共に区歌斉唱

退任された皆様、長い間ご支援、ご協力ありがとうございました。これまでの経験を若い人達にご伝授くださいますようよろしくお願いたします。

ジュニアリーダー 研修会について

第三地区少年団体協議会
会長 市川 元一

千住地区合同ジュニアリーダー

研修会は、毎年各地少協が交代で行っております。昨年は、第二地区少協が当番で、会場は千寿常東小を使用して行いました。今年も会場に千寿双葉小を使用することになり、子ども達をどのように集めるかが毎年の課題となります。

千住地域は、スポーツクラブに所属している子ども達が多く、研修会の募集をしても参加する子ども達が少なく、いつも苦勞しておりました。

今年の研修会参加申込者は十四名あり、何名が修了できるのか心配でした。

研修内容は、グループに別かれて紙芝居を読んだり、その紙芝居で劇をしたりと子ども達も楽しく研修ができ、十二名が修了となり、内十一名が皆勤となりました。講師の菅原さん、青少年委員の皆様、各地少協のお手伝いの皆様のおかげで無事に終了することができま

した。

来年は、スポーツクラブに所属している子ども達を如何に取り込むかを考えていきたいと思ひます。

育成者入門講座

中川地区少年団体協議会
会長 小久保 隆

六月十四日、大谷田小学校ラン

チルムにて「育成者入門講座」が行われました。講師に村上長彦氏と地元講師として前地少協会長・岩澤明美氏にお願いしました。村上氏からは「地域で子どもを育てよう」をテーマに本来の子どもの会のあり方と必要性、異年齢集団活動の難しさ、楽しさについてお話いただきました。

また、子ども会の組織構成と子どもに関わる地域の組織や、繋がりについての説明もありました。

地元講師からは、中川地域における子ども会の現状と今後についてお話がありました。時代や地域に合わせて変化していく活動例や遊び以外の新しい活動のご提案をいただきました。

「子どもが卒業した後も、地域の子どものために引き続きご協力

いただきたいと思います。」と結ばれました。

初めて子ども会に関わる方が大勢参加され、大変有意義な講習会となりました。これからの子ども会活動がより活発になることと思ひます。

育成者入門講座を 終えて

第十四地区少年団体協議会
会長 元井 一壽

去る六月中の土日を利用し、三回のジュニアリーダー研修会を行いました。その最終日、育成者入門講座を同会場にて開きました。

私も十四地少協は十三の子ども会育成会を担当していますが、その中より三十五名もの育成者の皆様が参加してくださいました。

講座の内容は、子ども達や保護者を取り巻く地域の組織を説明しました。講座に参加した方々は、十四地少協のことはよく知っていました。

足立区に三十一もの地少協があることや、その上部団体の少連協のことなど、新しい育成者は知らないことが多く、まして地区対の内容などほとんど理解していませんでした。

私たちは、地域で生活している

以上、町会や地区対の内容をよく理解し協力する必要がある、その組織の多彩さを知り、何か悩み事ができた時、いろいろな立場から相談できる体制が身近にあるということを、強く説明いたしました。参加した方々もよく理解してくれましたよう、区のセミナーにも多くの人が参加してくれました。

育成者入門講座

栗島地区少年団体協議会
会長 芝田 宏子

栗島の設立は一九八二年、会員一六〇二名、その当時は青井・東島根・栗島と三地少協合同でAコース研修を行い、栗島の参加者は二十四名だった。以来二十六年の間に、Cコースまで研修を終えてリーダーとして活躍してくれたのは何人だっただろうか？

おそらく一〇〇人は超えると思う。会員数六九二名の今年度の申込者は四名、一回目研修日に参加者が増えトータル十四名(育成者がつれてきた低学年三名を含む)。今一度私達はこの現実を深く受け止めて考えてみる必要があると思う。

第十八回子ども会育成者セミナー

平成二十年度、第十八回子ども会育成者セミナーが、七月六日(日)午前九時三十分より、足立区役所本庁舎二階庁舎ホールにて開催された。

今回のテーマは、「防犯につながるケータイ電話 でも本当に安全？」サブテーマとして、「作ろう我が家のケータイルール」である。

講師は、星一郎先生で、心の東京革命協議会専門員・心理セラピストおよび東京都ファミリールール講座指導者である。

東京都が推進する「心の東京革命」の一環として実施されている「ファミリールール」の講習を体験する形で、ケータイ電話の問題を考え、子ども会育成者としてどのようにこの問題に向き合えばいいかを、改めて考えていくという内容であった。

最初に講義を聴き、その後八名程度のグループに別れ、テーマに沿った話し合いをした。グループでの話し合いには、各グループに「ファミリールール」のファシリテーター(話し合いの進行役となるが、話し合いをリードするの

ではなく、参加者が自主的に話し合えるように支援する役目を果たす)が一名入った。

講師の星先生より、現代の子ども達の三つの危機についての話があった。

一つめは、食文化が乱れてきているという。噛む力が弱くなり、味覚異常者の増加等、様々な悪循環により本物の味がわからなくなっている現状。

二つめは、知識や教育ばかりに目が行き過ぎて、社会奉仕や生活上で身につけた知恵の活用がなされていない。

三つめは、最近の子どもは、自分が嫌いでたまらないという。平和で物が豊富な日本は、この先どうなってしまうのか。

改めて、この三つの危機を考えると、今回のテーマの「ケータイ」を持つ危機感は、本当にタイムリーであったと思う。子どもが、いつのまにか犯罪にかかわっていきなり、事件の渦中の人になっていくという事は、見逃すことにはできない。

また、最近はいんターネットで

すぐにはじめる身近なエコ活動

—子ども会から広げるエコの環—

神戸市から発信された神戸市子ども会連合会の活動が「子どもとはじめる 10gCO₂削減プロジェクト」として本を出版。活動の環をひろげている。

ストップ地球温暖化に対応する、子どもたち自身が意識をもって簡単に取り組める本として実績と効果をしめした。

注文は全国子ども会連合会

Tel 03-5319-1741

神戸市子ども会連合会 編著

株式会社いかに社 発行 ¥893

* * *

足立区少年団体連合協議会の活動として野辺会長は、子ども達と共にストップ地球温暖化や環境問題を学び、エコ活動に取り組む意向である。

●エコ活動について参考ご意見を募集。

足立区青少年センター青少年事業係事務局

Tel 03-5242-8169

の「いじめ」もあるようで、常にアンテナを張っていないと、何が起るかわからないといった現状を話されていた。

最後にグループ討議が活発に行われ、いろいろな問題が発表された。

ネットで知り合った人に会っていかと子どもが伝えてきたので、行かない方がよいとのアドバイスをした。ケータイの請求が高額だったので、すぐ定額にした。子どもにとって、ケータイが命というこの現状をほどほどのところでやめてもらいたい、等々。

終了後、アンケートを書いてい

ただいた。今回の講座に参加してよかったと思っっている方がほとんどであった。各家庭の状況によって、ルールの内容が違うにしても、やはり作った方がよいという意見が多かった。現代の子ども達は、パソコンやケータイのことに詳しいので、大人や親の情報として、今回のような講座はとても必要であるとの意見もあった。

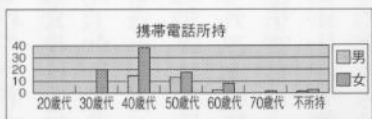
今回の講座に参加してみて、子どもと関わる真剣さ、子どもを思いやる慈愛から湧き出する「智慧」を改めて見る思いであった。講師の星先生の今後のご活躍を期待するものである。

過日行われた育成者セミナー参加者にご協力をいただいた、携帯電話に関するアンケート結果をご報告します。

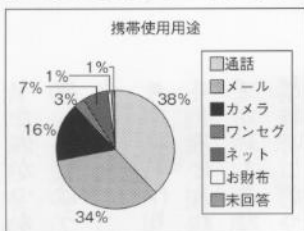
セミナー参加者 160 名、回収 115 枚、アンケート回収率 72% に基づくデータです。現在、携帯をお子さんに所持させているご家庭、またはこれからと思われるご家庭にご参考となれば幸いです。

大人の携帯電話普及

参加者全体の 98% の方が携帯電話を所持しています。

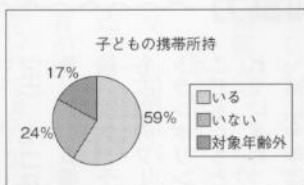


使用用途は、通話・メールがほとんどですが、ワンセグ、ネット、etc、高機能携帯電話をフル活用されている方もいらっしゃり、今、大人社会でも携帯電話は、なくてはならないものとなっているようです。



子どもの所持率は、

アンケート回収率 72% のうちの 75% の方が、お子さんに携帯電話の所持を許可されています。参加者全体でみると 54%、回答者の 59% のご家庭のお子さんが携帯電話を所持することになります。その中でもさらに 17% の方が成人されているご家庭です。



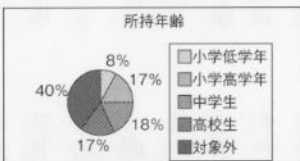
このように見ると区内の青少年の携帯電話普及率は、あまり高くはないように錯覚をしてみがちですが、総務省統計局の調査では、東京都普及率は 84.3% です。この比から

携帯電話に関するアンケート結果

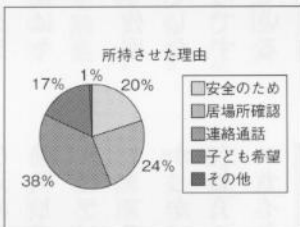
見ると区内の子ども達の多くも、所持しているのではないのでしょうか？

いつ頃から許可しているの

携帯電話を許可しているご家庭は、いつ頃から持たせているのでしょうか。



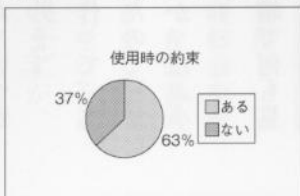
上記グラフから分かるように小学生高学年～中学生にかけて携帯電話を初めて与えるご家庭が多いようです。理由は、塾通いなどで帰宅が遅くなるための安全確認のため、また共働きのご家庭が増えたためでしょうか？ 家族間通話のためが大半を占めています。



携帯を与える時の約束ごとは？

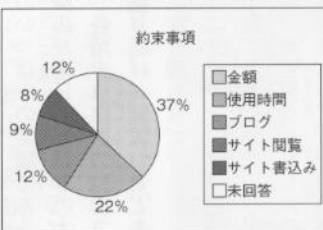
携帯所持を許可した時、家族間の約束ごとはどうでしょうか？

グラフに示すように約 6 割のご家庭しかルールを決めていません。



この 6 割のご家庭の約束ごとの大半は、金額制限と使用時間制限です。

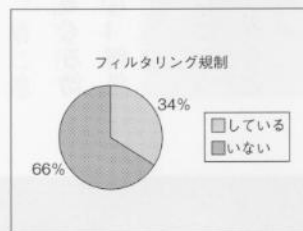
この約束ごとは、親の立場からの



経済的防衛策であり、子どもを携帯電話のリスクから守る約束ごとを実施されているご家庭は、あまり多くはありませんでした。

有害サイトのリスク対策

では、有害サイトに関して、親はどのような対策を立てているのでしょうか？



上記に示すように約 3 割のご家庭しか子どもの携帯にフィルタリング規制をしていません。

18 年度警視庁資料によると携帯電話から出会い系サイトを利用して被害を受けた子どもは、142 人です。その中で中学・高校生は、103 人です。

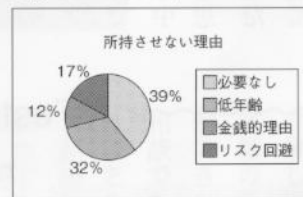
好奇心旺盛な子ども達は、携帯電話の便利さを親以上に知っています。

地域・学校・警察が協力して健全育成を目指すことを基本とするなか、寝静まった夜中、携帯電話でトラブルに巻き込まれることのないよう、使用時のルール・フィルタリングの普及は、便利な文明の力をあたえる親の責任ではないでしょうか？

有害サイトアクセスサービスは、携帯電話ショップ各店でを行っています。

携帯電話を所持させない理由

アンケート回答ご家庭の 25% は所持を許可していません。どのような理由からでしょうか？



お子さんの年齢が低いため所持をさせていないご家庭が多いようでした。

これらのご家庭も子ども達の年齢が上がるにつれ、携帯電話の所持を許可するようになることでしょう。

是非、お子さんと一緒にルールを作っていただきたいと思います。

ジュニアリーダー研修会

宿泊キャンプ

in鹿沼

体に似合わず大きなリュックを背負い、それでも足りずに手荷物まで持ち、大汗を拭きながらの子お父さん、お母さんにリュックを持たせて悠然と来る子、三泊四日の初日です。

日曜日に当たり、そのせいかな両親・兄弟姉妹と家族での見送り組が多い感じがありました。

そんななか、一年振りの再会に抱き合って喜んでるグループ、初参加で不安そうな顔つきの子どもなど。

しかし、班ごとに整理すると、不安そうな顔つきも笑顔に早変わり、改めて、子ども達の順応性の早さに驚かされます。

別れを惜しんで泣きじゃくる幼い妹に後髪を引かれながら、何年振りかのバスでの出発です。

車中ではリーダーが中心になってクイズや、キャンプソングなどで楽しく過ごしました。

高速道路も順調に、羽生サービスエリアでトイレ休憩を取り、鹿

沼宿泊センターには予定時刻よりも早めの到着でした。

昼食後は開村式、テント講習、設営、かまど講習と忙しく動きまわりました。

夕食は、本日のメインイベント、コンテストの結果も気になるカレー作りです。

二日目は午前中は自然観察、染物、クラフト、午後は川遊び、夜はナイトハイクと盛りだくさん。

三日目は自然観察、押花、クラフト、午後はおやつ作り、夜はキャンプファイヤー。

四日目は後かたづけや帰り仕度、長いようで短かった四日間でした。子ども達の感想もいろいろです。

●テント張りは用具が揃っているのでむずかしくなかったけど、五人寝られるのか心配になった



テント張り講習

(小五男子)

●かまどはいざやってみるとなかなか火がつかなくて、五度目で成功した時はうれしかった(中一女子)。

●カレー作りは隠し味のリンゴジュースを入れ過ぎちゃって、スープカレーみたいになっちゃったけどおいしかった(小六男子)。

●川遊びは去年も楽しかったけど今年も楽しかった。リーダーの飛び込みがカッコよかった。いつか挑戦してみたい(中一男子)。

●クラフトで壁かけを作って、スタッフの人にほめられたので恥ずかしくなかったけどうれしかった(小六女子)。

●ナイトハイク、真っ暗で何も見えなかったから怖かったけど、だんだん周りの景色も見えてきたのとおもしろくなった(小五女子)。

●おやつ作りでゼリーを作ったのは楽しかったけど、キャンプファイヤーができなかったのが残念でした(第一クールは雨天のため中止)(小六女子)。

来年の参加を問うたところ、たくさんの方が手が挙がり再会を約してお別れしました。六・七班の皆さん、押花の葉ハジありがとう。

A-Festa 2008 あだち区民まつりに参加協力



A-Festa 2008

「地球が、みんなが、笑顔になる！」をテーマに十月十一日(土)、十二日(日)、荒川河川敷「虹の広場」キャンプの大冒険スタンプラリーの協力。こども広場のブースでは「ふわふわトランポリン・こども縁日」にこどもたちと連れだって家族連れでにぎわった。

特に今年はドッチビーのストラックアウトゲームを新設し、こどもたちから大好評であった。こども広場ブースは特にこどもたちのいっぱい笑顔であふれ、模擬店が縁日さながらの大盛況で、各地少協出店の協力で会場を盛り上げ、大人もこどもも一体になり楽しんだ。

足立シニアクラブ(伝承遊び・駄菓子屋)と共に幼児から児童、学生、老若男女が楽しみの渦に巻き込まれる。まさに地球が、みんなが笑顔になれる！秋空に天高く、こどもの声が元気にひびきあう広場だ。

平成二十年度
東京都地区
子ども会育成研究協議会

平成二十年十一月三十日(日)

午前十時三十分、参加者一三二名を招き足立区役所本庁舎二・一三階において開催。主催は社団法人全国子ども会連合会・NPO法人東京都子ども会連合会・足立区少年団体連合協議会、後援は内閣府・文科省・厚労省・東京都教育委員会・足立区・足立区教育委員会。足立区少年団体連合協議会によるホスピタリティの分野で、少連協の組織力を遺憾なく發揮し役割を果たした。

参加した都内各市町村の子ども会育成者・指導者・青少年行政担



分科会討議

当者・幼児青少年に係る関係者から高い評価をうけた。

研究協議会の内容は大会テーマ「地域育成力の充実を推進しよう」、サブテーマ「みんなで考えよう・これからの子ども会像」と、子ども会が抱える問題とともに掘り下げ、未来に発展する子ども会運営を熱心に協議した。近藤やよい区長の基調講演に始まり、部会協議・全体会での部会協議報告と三部構成による充実した育成研の成果が発表された。最後に野辺陽子会長から次期開催地の江東区へ都子連旗が手渡された。



都子連旗を次期開催地の江東区へ



お疲れさま！ 情報交流会

会場を移して情報交換会が開かれ、足立区少年団体連合協議会の結束と組織力は都子連と他区市町村の参加者に強い印象を与えることができた。

「たくましく生き抜く力を育む」子ども会に期待すること」

近藤やよい足立区長の「基調講演」は、プロジェクトとパワーポイントを駆使、「いま子育てから子育てへ」との自信に満ちたプレゼンは力強く、説得力があった。都内各地からの参加者はプレゼンターに賞賛の声。区長の子どもに對する政策に関心を示した。

このたびの育成研究協議会には足立区民の指導者も多数参加していたが「重点プロジェクト推進戦

略」として、「こども・くらし・まちづくり・経営改革」を第一にこども施策を掲げた、近藤区長の基調講演にひきつけられた。

―ウエルカムプロジェクト―
和太鼓演奏会 地元子どもたちがねじり鉢巻きと絆纏姿で笑顔の大歓迎！

午前中のプログラムが終了すると、地元第4地少協「弥生衆・鞆(れん)」による演奏会が行われた。多島未希リーダーによる、高校生から小学生までの熱気ある撥さばきは、まさに和太鼓の醍醐味で体の中まで響く演奏に会場は魅了された。参加者の都内各区市町村の指導者から拍手喝さいの演奏だった。



弥生衆・鞆による和太鼓演奏

**第五地区少年団体協議会
第三十七回ドッジボール大会**

七月十二日(日)、子ども会対抗、有志十名一チーム、第五地区協独自のルールで白熱したドッジボール大会が区立第五中学校の校庭で行われました。二十チームを超えるエントリーがあり、低学年チームも八十名の参加がありました。子ども達の笑顔が眩しい一日でした。

**舎人地区少年団体協議会
第二十五回 作品コンクール**

日時 八月二十三日(土) 審査会
八月二十四日(日) 表彰式
書道、図画、工作手芸の三部門



作品コンクール

の作品に対し、金、銀、銅、佳作特別賞として五十六名に賞状と賞品を授与しました(作品数二八五点、参加人数二八〇名)。

**第七地区少年団体協議会
第二回青少年防犯フォーラム**

テーマは「子どもの健全育成は地域の責任」。

夏休み前の七月八日、第七中学校体育館で地域を守る二五〇人が熱心に耳を傾けた。

基調講演、パネルディスカッションなどがあり、子どもを取り巻く環境に警鐘と対策を考えるフォーラムであった。特筆すべきは「健全育成は地域の責任」と言い切る野口 明会長のリーダーシップ。心よりエールを送りたい。



青少年防犯フォーラム

**ドッジビーの
取り組み**

第一回 八月二十日ギヤラクシテイ

全子連の推奨新ゲーム(ドッジビー)に少連協は参画し、足立区独自のドッジビー・ルール作りと普及に努める。

体育指導委員会に協力を要請し、ドッジボールを布製のフライディスクにおきかえて五五名が初体験。

* *
第二回 十二月二十日ギヤラクシテイ

ドッジビーの推進・普及活動による練習試合を開催。鈴木春夫総務部長は推進担当として二

月十一日、第一回のドッジビー大会開催の決定を受け、体育指導委員と共に準備・企画を担う。ディスクの意外性に戸惑いながらも歓声に包まれ、熱い練習試合が実施された。

* *
第三回二〇〇九年二月十一日

第一回足立区少年団体連合協議会「会長杯ドッジビー大会」が梅島小学校体育館で八時三十分集合して開催される。

参加チームを募集中。大人から子どもまで、誰もが安全に楽しめる新たなスポーツ。

各地少協・子ども会チームの多数の参加で大きな盛り上がりを見込んでいる。

(ドッジビー大会の様子は次号に掲載予定)

編集後記

子どもたちが仲間と共有する体験が乏しい。感動や喜び、苦しみや悲しみが共に地域で実践できればいいのだが。

各地少協の活動は内容こそ異なるが、子どものために懸命に取り組んでいる。子ども会の活動も育

成者のころろざしとぬくもりで満ちている。

人は群れたがると言うが、そんな熱いきずながもつとほしい。瑣末なことにかかわっている今、

未来を担う子どもを狭量に帰していいものか。大人の責任は重い。大人は子どもになにを残すのか。なにを伝えるのか。